

# 平成30年度 事業成果報告書

(平成30年4月1日から平成31年3月31日まで)

## 1. 地雷処理支援事業成果実績

カンボジア政府機関の CMAC (カンボジア地雷対策センター) と共同して事業を実施し、村人参加型地雷探知チーム5名により、バタンバン州のカムリエン郡、プノンプラ郡、サンパウルー郡、及びパイリン州内の6村9箇所地雷原を探知し、約26.5ヘクタール(累計約202.5ヘクタール)の農地を安全にするとともに、活動地域の村人からの情報による回収活動、危険回避の啓蒙活動を行った。

詳細は、以下である。( ) 数字は2011年8月からの累計

- (1) 処理した地雷数 : 対人地雷138個(545個) 対戦車地雷20個(177個)
- (2) 処理した不発弾 : 216個(1101個)
- (3) 処理した面積 : 264,898平方メートル(2,036,350平方メートル)

## 2. 地域復興支援事業成果実績

### (1) 相互の友好交流を促進する事業

「カンボジア王国バタンバン州及び日本国愛媛県間友好交流・経済相互協力に関する覚書」の締結について約9年前から相互調整の仲介をしていたが、2020年1月愛媛県知事がバタンバン州を訪問し締結する運びとなった。

### (2) インフラ整備を支援する事業

井戸掘削

井戸3基(No. 36、No. 37、No. 38)完成。(累計38基)

### (3) 農業の発展を支援する事業

特記する活動はなかったが、クマエ蒸留 Co.,Ltd.が行うラム酒の製造では良質のさとうきびが必要なため、村人のさとうきび畑を見て回り良質のさとうきびを生産していただくようお願いしている。また、同会社がレモンガラスアロマオイルの製造に必要なオーガニックで良質のレモンガラスの生産をお願いしている。今後も、同会社が「加工産業の発展」のモデル会社となり、カンボジアの自立発展に繋がる活動ができるように支援していきたい。

### (4) 地場産業の発展を支援する事業

地雷除去後の畑には、キャッサバ芋などが植えられる。芋は安値で隣国タイに売られていたので、何とか村人の収入を上げようと、この芋に付加価値を付けることを模索、芋焼酎の開発を2008年から始めた。松山市の酒造メーカーで当会顧問の篠原会長のアドバイスを受け、試行錯誤で開発したところ、大変美味しいと評される商品が出来た。バタンバン州知事によって「ソラークマエ(カンボジアの酒)」と命名され、現在カンボジアのプノンペン空港やシエムリアップ空港、世界中にある免税店Tギャラリアやその他国内で販売されている。また、愛媛の今治市にある(株)今治デパート様が輸入して国内で販売している。更に、カンボジア産米で焼酎を製造し、またサトウキビでラム酒の製造にも着手し、先般4月から(株)今治デパートの四村ショッパーズで販売している。

更には、来年1月にフランスのリヨンで開催される展示会に出展を予定している。また、村民の畑で栽培されているレモングラスを蒸留して精油を採取したところ、高品質のレモングラスオイルの製品化に成功した。今後、日本などにも輸出する予定。これらの活動は、現地法人 KHMER JYORYU Co.,LTD. (クマエ蒸留株式会社 社長 Mr.ソックミエン) によって地場産業の発展を促進している。

(5) 日系企業の誘致を支援する事業

2008年に1社(JPC)、2011年に2社(スギウラ、やまと印刷)、2014年に1社(キンセイ)、計4社四国中央市の紙加工会社を活動地の村に誘致した。更にカンボジアで活動している松山市、伊予市、今治市の会社の支援を行っている。今後も、企業活動と村の発展に直接貢献できる活動を模索しながら実施していくことになる。

(6) 教育環境の発展を支援する事業

プノンプラ郡ペッチエンダー村に愛媛県新居浜市のロータリークラブの有志の皆様から3教室の幼稚園をご寄贈いただいた。また、カムリエン郡ボングリアン村に愛媛の大塚忠様から3教室の小学校をご寄贈いただいた。

(7) 人材の育成を支援する事業

ア 留学生・技能実習生の支援

青森県八戸市の高校にタサエンコミュン出身のタン・チエンターは2010年3月から留学、2013年3月卒業し、同年4月から松山東雲女子大学に進学させていたが、2017年3月無事卒業した。4月から愛媛県今治市にある(株)ありがとうサービスに就職したが、一身上の都合により退社し、現在は神戸で通訳として働いている。2013年11月タサエンコミュン出身のスロ・リスラエンを松山に招致し、2014年4月から松山の聖カタリナ女子高等学校に留学させ、2017年3月無事卒業した。2017年4月から松山東雲女子大学に進学し現在3年生として就学している。また、八戸市の高校にタサエンの女子高校生ダエンナを短期留学として受け入れていただき、日本での生活や勉学を体験した(累計4人目)。今季からIMCCD日本語学校の生徒4名を技能実習生として、日本に送り2017年11月から今治市内のスーパーマーケットで実習中である。更に、宇和島市内の会社に技能実習生として来ているカンボジア人女性15名について、会社と連携しながら服務指導などアドバイスを実施している。

イ 建設技術の習得支援

松山市の(株)愛亀にカンボジア人男性を就職させ、服務指導など会社と連携して実施している。

ウ IMCCD日本語学校

村の子供たちに日本語とパソコンを教え、将来、日本企業への就職や、技能実習生として日本で実習しながら自立発展する機会を提供している。また通訳など日本語で職業に就けるように支援している。生徒のうちこれまでに、日本への留学2名、プノンペン大学の日本語学科へ7名、プノンペンの日本語学校へ7名入れている。更に、八戸市の高校に短期留学生としてこれまで4名を受け入れていただいた。日本語学校の現在の生徒数は、日本語教室が約40名、パソコン教室が約10名である。2014年5月

には、カンボジア政府から「日本語学校」として認定された。

(8) 講演、写真パネル展などを通じ平和構築を啓発する事業

ア 日本での講演活動

小学校、中学校、高校、ロータリークラブ、ライオンズクラブ、国際ソロプチミストなどでの講演を25回、少人数での交流会を3回、計28回実施した。(累計391回)最近では、テレビ、新聞などの報道が全国的になり、講演なども全国的な活動になってきている。

イ 写真パネル展示

群馬支部主催で写真パネル展を前橋市で、東京支部主催でカンボジアフェスティバルに出展、愛知支部主催のイベントを名古屋で、兵庫支部主催でワンワールドフェスティバルに出展、広島支部主催でトークイベントを開催した。

ウ 日本人のタサエン地区など訪問見学

153名(延べ852名)の邦人が活動地タサエン地区を訪問し、地雷処理活動や村の様子を見学した。特に大学生のスタディーツアーが60%を占め、地雷処理という戦後処理を行いながら平和を回復した村人との触れ合いの中から「心の豊かさとは」、「人の幸せとは」何かについて認識を深めていた。

(9) 広報に関する事業

ア 新リーフレットを逐次に活用するとともに、機関紙「カンボジア便り」を11月と5月に作成、配布し広く支援者などに活動を広報している。

更に、日本国内における広報活動は、一時帰国の約1ヵ月間を活用し、帰国月テレビ6~7回、ラジオ2回、新聞3~4回、講演8回、交流会などを実施した。

特に、テレビ朝日の「テレメンタリー」や、NHK松山放送局、南海放送、テレビ愛媛、あいテレビ、愛媛朝日テレビなどでIMCCDの活動の一端が放送された。2018年4月にはNHK WORLDの放送がされた。更に、「アンビリバーボー」の取材が予定されている。

また、愛媛県内には八幡浜分会、新居浜分会、今治分会、四国中央分会、愛媛県以外では群馬支部、広島支部、東京支部、兵庫支部、愛知支部が設置されているが、新たに宮崎支部、山口支部が設置された。海外では、カンボジアのバタンバン支部、シエムリアップ支部、タイにバンコク支部を設置している。

イ 表彰等

社会貢献支援財団特別表彰

著書 『地雷処理という仕事』—筑摩書房— 重版800部が決定した。

『平和の種になりたい』—IMCCD—

現在、文藝春秋出版社と執筆について調整中。

以上